

地方独立行政法人那覇市立病院

第3期中期目標期間の業務実績に関する評価

第3期（平成28年4月1日～令和2年3月31日）

令和3年1月

那 覇 市 長

1. 市長評価結果（地方独立行政法人法第 28 条第 1 項第 3 号関係）

全体として、第 3 期中期計画の着実な実施により、同中期目標は順調に達成されたと評価する。

中期計画第 1 から第 3 の各事項については次のとおり

第 1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項		事業年度評価結果			
		H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1
		A	A	A	A
評価理由	市立病院としての役割の発揮として、救急医療体制及び小児・周産期医療の充実が順調に図られており、診療機能の充実としては、高い水準での実績から専門医の確保及び医療チーム全体の技術向上により高度医療の充実が十分に図られていると評価する。また、がん医療体制の強化としては、地域がん診療連携拠点病院としての機能充実を図り、地域医療機関との連携推進・強化や医療安全対策の徹底についても順調に実施されており、市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項は順調に達成されたと評価する。				

第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項		事業年度評価結果			
		H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1
		C	A	A	A
評価理由	研修及び先進施設の視察派遣等により、人材育成の強化が順調に図られており、学会参加や発表の推進、専門資格取得の支援から、スタッフの専門性が向上されていることを評価する。また、予算執行の弾力化と費用節減においても、適切に取り組まれており、業務運営の改善及び効率化に関する事項は順調に達成されたと評価する。				

第 3 財務内容の改善に関する事項		事業年度評価結果			
		H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1
		C	A	S	A
評価理由	診療報酬の改定や患者動向などに適切な対応を行い、経営機能の強化が図られており、平成 28 年度から取り組んだ収支改善計画が実り、3 期連続で医業収支比率 100%超を継続し、黒字決算となっており、財務内容の改善に関する事項は、特筆すべき達成状況であると高く評価する。				

2. 中期目標の期間における業務の実績評価に対する評価委員会意見（令和2年12月25日付評価委員会答申書より）

全体として、中期目標・中期計画を順調に達成している。

中期計画第1から第3の各事項に対する意見は次のとおり。

第1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

那覇市立病院は、地方独立行政法人が持つ公的使命を果たすべく、救急医療体制の充実・強化、小児・周産期医療の充実、災害医療への取組において、高い実績を上げている。特に、救急搬送の受入率は、毎年度継続して90%以上を維持し地域医療に貢献、また、小児・周産期医療において、小児科専門医が常駐する体制を維持していることは住民に安心感を与えている。

診療機能の充実として、脳神経外科医の増員は、手術件数等の増加と医師の負担軽減、その両方に良い影響をもたらし、市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に貢献している。また、がん患者を支える連携体制を維持し、地域医療機関との連携の推進・強化において、紹介率及び逆紹介率が、第3期中期目標期間中、一貫して伸びたことを評価する。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

業務運営の改善及び効率化について、後発医薬品の採用促進において目標を上回る実績を達成するなど、予算執行の弾力化と費用節減に努め、資金増加額が計画の約2倍となっている。日々の努力の積み重ねがもたらした結果として評価する。

第3 財務内容の改善に関する事項

経営面においては、経営機能の強化のために、入院収益の増加に向けた機能評価係数への対応、診療報酬請求の全国平均より遥かに低い査定率の維持など継続的な収支改善への取組の結果、3期連続の黒字は大いに評価できる。特に、診療報酬改定や患者動向などの情報を迅速に収集・分析し、必要に応じた対応策の立案、的確な対応を行い、経常収支比率及び医業収支比率は、引き続き高い数値を出していることを高く評価する。

3. 各事業年度評価結果及び実績

第1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置		事業年度評価結果																												
		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																									
中期目標	中期計画	A	A	A	A																									
<p>第2 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>1 市立病院としての役割の発揮</p> <p>(1) 救急医療体制の充実・強化 地域医療に貢献するため、365日24時間救急医療体制の維持・充実を図ること。また、救急搬送の受け入れをスムーズに行えるよう消防や関係機関と連携を強化すること。</p> <p>(2) 小児・周産期医療の充実 地域医療機関との連携に基づき小児・周産期医療を担うとともに、安心して子どもを産み、かつ、育てられるよう医療の提供を確保すること。</p>	<p>第1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 診療機能の充実</p> <p>(1) 救急医療体制の充実・強化 ①救急医療の充実・強化 ア 地域の医療機関等と連携して、365日24時間救急医療体制の維持・充実を図る。 イ 消防や関係機関との連携を密にして「たらい回しのない救急医療」に貢献する。</p> <p>(2) 同左</p>	<p>[実績]</p> <p>●救急医療体制の維持・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・365日24時間救急医療体制を維持した。【H28～】 ・平成28年8月より2階北病棟に急病からの入院専用病床10床を確保し、入院を要する患者を速やかに入院させる体制を整備した。【H28～】 ・救急隊への病院選定の基準策定、周知や選定に関する個々の事例検討に当院医師も参加している南部地区MC協議会で行われている。消防や関係機関との連携を密にして「たらい回しのない救急医療」に貢献した。【H28～】 <p>急病センター患者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急病センター受診患者数</td> <td>43,020人</td> <td>42,640人</td> <td>38,333人</td> <td>38,597人</td> </tr> <tr> <td>うち入院患者数</td> <td>4,338人</td> <td>4,989人</td> <td>5,171人</td> <td>4,719人</td> </tr> <tr> <td>うち救急車受入数</td> <td>4,650人</td> <td>4,954人</td> <td>4,573人</td> <td>4,773人</td> </tr> <tr> <td>救急車の受入率</td> <td>95.1%</td> <td>94.7%</td> <td>93.6%</td> <td>93.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>●小児・周産期医療の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当院の小児科医師を主体とし、近隣の小児科開業医、琉球大学小児科の応援を受け、365日24時間体制で救急患者を受け入れた。小児科医が常駐することで、小児救急医療に貢献することが出来た。【H28～】 				区 分	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	急病センター受診患者数	43,020人	42,640人	38,333人	38,597人	うち入院患者数	4,338人	4,989人	5,171人	4,719人	うち救急車受入数	4,650人	4,954人	4,573人	4,773人	救急車の受入率	95.1%	94.7%	93.6%	93.2%
区 分	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度																										
急病センター受診患者数	43,020人	42,640人	38,333人	38,597人																										
うち入院患者数	4,338人	4,989人	5,171人	4,719人																										
うち救急車受入数	4,650人	4,954人	4,573人	4,773人																										
救急車の受入率	95.1%	94.7%	93.6%	93.2%																										

<p>(3) 災害医療及び感染症医療その他の緊急時における医療支援・協力 災害時における病院機能を維持し、緊急時に対応し得る医療のリーダーとして迅速かつ適切な初動対応に備えるための体制づくりや訓練を行うこと。 災害時やその他の緊急時において医療拠点としての役割を担うとともに、那覇市の地域防災計画、新型インフルエンザ等の健康危機管理対策に適切に対応すること。 また、那覇市保健所と連携し、感染症対策などに協力すること。 さらに、他の自治体等において大規模災害が発生した場合は、災害派遣医療チームを派遣するなど、医療救護活動の支援に努めること。</p> <p>2 診療機能の充実</p> <p>(1) 高度医療の充実 ① 高度医療の充実 地域の中核的急性期病院として、優秀な医療スタッフの確保に努め、高度医療の充実を図ること。</p> <p>② 医療機器等の計画的な更新・整備 市立病院に求められる医療を提供出来るよう、必要な医療機器等を計画的に更新・整備をすること。</p>	<p>(3) 災害医療及び感染症医療その他の緊急時における医療支援・協力 災害時には、医療拠点としての役割を担うとともに、那覇市の地域防災計画や新型インフルエンザ等の健康危機管理対策に適切に対応する。 また、那覇市保健所と連携し、感染症対策などに協力する。そのために普段から災害派遣医療チーム (DMAT) を組織し、訓練、研修会等へ積極的に参加する。 さらに他の自治体等において大規模災害が発生した場合は、災害派遣医療チームを派遣するなど、医療救援活動の支援に努める。</p> <p>2 診療機能の充実</p> <p>(1) 高度医療の充実 ① 高度医療の充実 地域の中核的急性期病院として、優秀な医療スタッフの確保に努めるとともに、がん治療やその他の高度医療を充実するため、医師等の増員とスキルアップを図る。</p> <p>② 医療機器等の計画的な更新・整備 中期計画の期間における資金計画を策定し、計画的に次の医療機器等の更新・整備を進める。 ア CT イ MRI ウ 放射線治療装置</p>	<p>● 災害医療及び感染症医療その他の緊急時における医療支援・協力 ・ DMAT を組織し、訓練、研修会等へ積極的に参加した。【H28～】 ・ 平成 28 年熊本地震発生に伴い、被災地へ DMAT を派遣した。【H28】 ・ 新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき、その業務に関し、新型インフルエンザ等対策に関する指定地方公共機関としての業務計画を平成 28 年 12 月に作成した。【H28】 ・ 大規模地震災害等が発生した際に、医療提供機能を維持できるよう、事業継続計画 (以下、BCP という。) 導入に取り組み、BCP を平成 31 年 3 月に策定した。【H30】 ・ 令和 2 年 2 月に起きた、ダイヤモンドプリンセス号での新型コロナウイルス感染症の集団感染において、当院の救急医師 1 名の派遣を行った。【R01】</p> <p>● 高度医療の充実 ・ 脳神経外科医を増員し脳血管造影、血管内治療等の高度医療の充実を図った。【H29～】 ・ 高度医療の充実を図るため、医師看護師の確保を継続した。【H28～】 ・ 腹腔鏡下手術および内視鏡手術について専門医育成。腹腔鏡下・胸腔鏡下手術の充実につながった。【H28～】</p> <p>● 医療機器等の計画的な更新・整備 ・ CT 検査装置を更新した。【H29】 ・ 集中分娩監視管理システムを更新した。【H29】 ・ 物流管理システム更新を実施した。【H29】 ・ MRI 検査装置を更新した。【H30】 ・ カルテスキヤン文書管理システムを更新した。【R01】 ・ 眼科画像ファイリングシステムを更新した。【R01】</p>
---	---	--

<p>(2)がん医療体制の強化 地域がん診療連携拠点病院として、がん医療の水準向上に努め、患者や家族からの相談支援の充実を図るとともに、地域住民にがんに関する情報を提供し、その普及・啓発に努め、がん診療体制の強化を図ること。</p> <p>(3)地域連携の推進・強化 地域医療支援病院として地域で完結する切れ目のない医療を提供するため、地域の医療機関との更なる連携を推進・強化すること。</p>	<p>(2)がん医療体制の強化 ①地域がん診療連携拠点病院としての機能の充実 ア 沖縄県がん診療連携拠点病院との連携を強化し、がん診療連携パスの利用を促進する。 イ がん医療の水準向上のため、がん診療に従事する医師等に対する研修会を開催する。 ウ 全国がん登録を推進する。 エ 他の医療機関と連携し、緩和ケアの充実を図る。</p> <p>②がんに関する情報の市民への普及・啓発 地域住民に対し、がんフォーラム等の講演会を継続して開催する。</p> <p>(3)地域連携の連携推進・強化 地域医療支援病院として地域で完結する切れ目のない医療を提供するため、次のように地域の医療機関との連携を強化する。 ①地域医療支援病院運営委員会を定期的に開催する。 ②地域連携交流会と登録医総会を年1回開催する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●がん診療連携パスの利用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・5大がん地域連携パスの適用件数は、平成28年度～令和元年度で計159件であった。 ●がん診療従事者に対する研修会の開催。 <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度～令和元年度で計38件開催した。 ●全国がん登録の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年が930件、平成29年が923件、平成30年が984件、令和元年度が952件であった。 ●がん患者の就労支援等 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年10月に沖縄県産業保健総合支援センターと協定を締結し、「両立支援出張相談窓口」を開設。社会保険労務士による就労支援相談を定期的(毎月第3水曜日)に開催している。 ●がんに関する情報の普及・啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に対し、がんフォーラム、講演会、乳がん塾等を継続的に開催した。【H28～】 ●平成28年度から令和元年度まで地域医療支援病院運営委員会を定例会として年2回開催した。 ●平成28年度～平成30年度まで地域連携交流会を年に1回開催した。平成28年度～平成30年度まで登録医総会を年に1回開催した。令和元年度は新型コロナウイルス感染症により、いずれも開催中止とした。
---	---	---

<p>(4) 市の施策との連携等</p> <p>①保健・福祉行政との連携</p> <p>市民の健康増進を図るため、市や関係機関と連携・協力して特定健診等の各種健康診断を実施し、疾病予防対策等に協力すること。</p>	<p>③地域医療支援病院として地域完結型医療を目指し、地域での役割分担、機能分化をより一層推進する。</p> <p>④地域連携パスの利用を促進する。</p> <p>(4) 市の医療施策との連携等</p> <p>①保健・福祉行政との連携</p> <p>市民の健康増進を図るため、市等の関係機関と連携・協力して特定健診等の各種健診を実施する。</p> <p>また、近年増加の一途を辿っている慢性腎臓病（CKD）の早期発見、血液人工透析への移行を防止する対策として、患者・市民・社会・医療従事者への情報提供を積極的に行う。</p>	<p>●紹介率等</p> <table border="1" data-bbox="1243 113 2132 360"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>75.2%</td> <td>75.4%</td> <td>73.6%</td> <td>77.0%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>70.1%</td> <td>80.9%</td> <td>83.4%</td> <td>84.6%</td> </tr> <tr> <td>開放病床利用率</td> <td>155.3%</td> <td>142.0%</td> <td>139.4%</td> <td>140.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>●地域連携パスの利用促進</p> <p>地域連携パスの利用実績</p> <table border="1" data-bbox="1243 499 2132 667"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大腿骨頸部骨折パス</td> <td>104件</td> <td>128件</td> <td>219件</td> <td>127件</td> </tr> <tr> <td>脳卒中パス</td> <td>262件</td> <td>260件</td> <td>266件</td> <td>410件</td> </tr> </tbody> </table> <p>●健診センターでの人間ドック等の実績</p> <table border="1" data-bbox="1243 735 2132 1094"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特定健診件数</td> <td>2,761件</td> <td>2,575件</td> <td>2,786件</td> <td>2,568件</td> </tr> <tr> <td>特定保健指導件数</td> <td>372件</td> <td>402件</td> <td>502件</td> <td>492件</td> </tr> <tr> <td>がん検診件数</td> <td>770件</td> <td>681件</td> <td>686件</td> <td>424件</td> </tr> <tr> <td>人間ドック件数</td> <td>4,396件</td> <td>4,693件</td> <td>4,807件</td> <td>4,708件</td> </tr> <tr> <td>健康診断件数</td> <td>3,202件</td> <td>3,343件</td> <td>3,729件</td> <td>3,722件</td> </tr> </tbody> </table> <ul data-bbox="1279 1134 2132 1382" style="list-style-type: none"> ・特定保健指導を継続した。 ・センターにおいて、当院の医師、認定看護師、理学療法士、管理栄養士等を講師とし健診受診者向けミニ講座を開催した。 ・保健所へ感染症発生報告を定期的に行った。 ・慢性腎臓病に対する情報提供について、CKD 講演会へ当院医師を講師として派遣した。 ・CKD に対するフォローアップ、教育入院を推進した。 	区 分	28年度	29年度	30年度	R元年度	紹介率	75.2%	75.4%	73.6%	77.0%	逆紹介率	70.1%	80.9%	83.4%	84.6%	開放病床利用率	155.3%	142.0%	139.4%	140.0%	実績	28年度	29年度	30年度	R元年度	大腿骨頸部骨折パス	104件	128件	219件	127件	脳卒中パス	262件	260件	266件	410件	項 目	28年度	29年度	30年度	R元年度	特定健診件数	2,761件	2,575件	2,786件	2,568件	特定保健指導件数	372件	402件	502件	492件	がん検診件数	770件	681件	686件	424件	人間ドック件数	4,396件	4,693件	4,807件	4,708件	健康診断件数	3,202件	3,343件	3,729件	3,722件
		区 分	28年度	29年度	30年度	R元年度																																																													
紹介率	75.2%	75.4%	73.6%	77.0%																																																															
逆紹介率	70.1%	80.9%	83.4%	84.6%																																																															
開放病床利用率	155.3%	142.0%	139.4%	140.0%																																																															
実績	28年度	29年度	30年度	R元年度																																																															
大腿骨頸部骨折パス	104件	128件	219件	127件																																																															
脳卒中パス	262件	260件	266件	410件																																																															
項 目	28年度	29年度	30年度	R元年度																																																															
特定健診件数	2,761件	2,575件	2,786件	2,568件																																																															
特定保健指導件数	372件	402件	502件	492件																																																															
がん検診件数	770件	681件	686件	424件																																																															
人間ドック件数	4,396件	4,693件	4,807件	4,708件																																																															
健康診断件数	3,202件	3,343件	3,729件	3,722件																																																															

<p>②在宅医療への支援及び在宅医療との連携強化 本市において構築を予定している地域包括ケアシステムに、市立病院の機能に応じて協力すること</p> <p>③市民への情報の提供・発信 市民に対してホームページやマスコミ等を活用した医療情報の提供など、保健医療情報の発信及び普及啓発を推進するとともに、病院の診療機能・運営状況の発信の充実に努めること。</p>	<p>②在宅医療への支援及び在宅医療との連携強化 那覇市が構築予定の地域包括ケアシステムに、市立病院の機能に応じて協力する。 在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、介護施設、ケアマネジャー、社会福祉士等を支援し、連携を強化する。入院患者がスムーズに在宅医療へ移行できるよう退院支援の強化、適切な情報提供、急変時の受入体制の強化等を行い那覇市の地域包括ケアシステムに協力する。</p> <p>③市民への情報の提供・発信 ア 市民に対してホームページやマスコミ等を活用し、医療情報を提供する。 イ 医療講演会を開催する。</p>	<p>●在宅医療への支援及び在宅医療との連携強化 ・退院調整実施件数増加に向け、年度目標を掲げ取り組んだ。 ・地域包括ケアシステムに関連し、第7次なは高齢者プラン策定に参画した。【H29】</p> <p>●ホームページ等を活用した医療情報提供 ・広報誌の発行は年4回。 ・病院ホームページにて、診療データの公表や、地域住民のための講演会や研修会等の案内、その他お知らせなど掲載。</p> <p>●医療講演会の開催 ・地域住民への情報提供の一環として、講師に認定看護師、医師を配し、公開講座（出前講座）を開催した。【H28～】</p> <p>●出前講座の強化 ・那覇市地域包括支援センターの各地区代表者が集う会議へ直接参加し、那覇市立病院で実施予定の出前講座リストを持参し、各自治体で依頼が必要な際は講師の予定を組み、地域へ出向くことを実施した。 平成30年度と比較し約5倍の講座数を記録し、目標数も大幅に達成した。【R01】</p>
--	--	--

(5) 専門性及び医療技術の向上
医療スタッフの研修等を充実し、専門性及び医療技術の向上を図ること。

- (5) 専門性及び医療技術の向上
- ① 琉球大学と連携して、初期臨床研修医及び後期研修医の教育研修の充実に努め、また、初期臨床研修医、後期研修医に対し、県内外の先進的な医療機関への派遣研修を実施する。
 - ② 学会参加、学会発表を推進する。
 - ③ 看護職の専門性の向上のため、認定看護師及び専門看護師等の資格取得を支援する。
 - ④ その他のメディカルスタッフについても、各部門で専門性に応じた研修等を実施し、認定及び専門の資格取得を支援する。

● 琉球大学と連携した教育研修の充実
・ 初期研修医、後期研修医へ派遣研修を実施した。【H28～】

派遣研修先	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
県内	初期 10 名 後期 2 名	初期 9 名 後期 2 名	初期 5 名 後期 2 名	初期 0 名 後期 0 名
県外	初期 3 名 後期 0 名	初期 4 名 後期 0 名	初期 3 名 後期 0 名	初期 5 名 後期 7 名

・ 琉球大学医学部の臨床実習生 69 名を受け入れた。【H28～H30】

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
臨床実習生 受入人数	21 名	20 名	28 名	一名

● 学会参加、論文発表の推進
平成 28 年度(179 名)、平成 29 年度(159 名)、平成 30 年度(139 名)、令和元年度(126 名)が学会へ参加 計 603 名

● 看護職への資格取得および研修の推進
平成 28 年度 (資格取得) 1 種 計 2 名 教育課程修了 2 名
平成 29 年度 (資格取得) 5 種 計 6 名
平成 30 年度 (資格取得) 3 種 計 3 名
令和元年度 (資格取得) 3 種 計 4 名

● コメディカルへの資格取得および研修の推進
平成 28 年度 (資格取得) 9 種 計 9 名 (研修) 146 種 1,049 名
平成 29 年度 (資格取得) 6 種 計 7 名 (研修) 200 種 1,095 名
平成 30 年度 (資格取得) 3 種 計 4 名 (研修) 112 種 295 名
令和元年度 (資格取得) 1 種 計 1 名 (研修) 86 種 233 名

(6) 安心・安全で質の高い医療の提供

① 医療安全対策の徹底

安心・安全で良質な医療を提供するため、院内の感染症対策及び医療事故防止対策を徹底し、医療安全の確保を図ること。

② 患者中心の医療の実践

患者が自ら受ける医療の内容に納得し、自分に合った治療法を選択できるようにすること。

③ 科学的根拠に基づく医療の推進

質の高い医療を提供するため、科学的根拠に基づく医療（EBM）を推進すること。

④ 医療の標準化と最適な医療の提供

効果的な医療を提供できるよう、クリニカルパス（疾患別に退院までの治療内容を標準化した計画表のこと。）の活用を図ること。

⑤ 法令・行動規範の順守（コンプライアンス）

市民から信頼される病院となるため、医療法や個人情報保護、情報公開などの法令等を遵守すること。

(6) 安心・安全で質の高い医療の提供

① 医療安全対策の徹底

安心・安全で良質な医療を提供するため、院内感染症対策及び医療事故防止対策を徹底する。

② 患者中心の医療の実践

患者の信頼と納得に基づいた医療を実践する。セカンドオピニオン体制の維持

③ 「科学的根拠に基づく医療（EBM）」及び「医療の標準化と最適な医療」の提供

科学的根拠に基づく医療（EBM）と最適な医療を同時に提供できるよう、診療ガイドライン等を参考にしたクリニカルパス（疾患別に退院までの治療内容を標準化した計画表）を作成し、活用を図る。

④ 法令・行動規範の順守（コンプライアンス）

医療法や個人情報保護、情報公開などの法令等を順守するため、研修会を実施する。

● 医療安全対策の徹底

- ・ 感染防止対策委員会の開催については毎月実施しており、下部組織である ICT・リンクナース合同会議も同様に実施している。過去 3 年間、手指衛生の遵守率向上に取り組み、遵守率は 40%へと若干上昇したが、3 年目の昨年の遵守率は大きな上昇がなく、継続した手指衛生順守に向けた対策の継続が必要と考える。他施設との連携では、感染防止対策加算の連携施設を 3 施設へ増やし、合同カンファレンスも施設基準の 4 回/年をクリアして、相互の感染対策の向上につながった。【H28～】
- ・ 医療安全対策委員会は毎月開催し、当院でのインシデント・アクシデントの内容などを精査した。【H28～】

● セカンドオピニオン体制の維持

- ・ ホームページや電話等でセカンドオピニオンについて情報を提供し、希望者には窓口で相談、紹介を行った。

● EBM の推進

- ・ 診療ガイドライン等を参考にクリニカルパスを作成した。

年度別クリニカルパス運用実績

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
クリニカルパス 適用患者数	3,874 人	3,658 人	4,409 人	5,253 人
クリニカルパス 種類数	143 (累計)	148 (累計)	212 (累計)	217 (累計)

● コンプライアンスの順守

- ・ 全職員を対象に医療法や個人情報保護をテーマに外部講師を招き院内研修会を実施した。

<p>3 患者サービスの向上</p> <p>(1) 診療待ち時間の改善等 患者サービス向上の観点から、待ち時間対策などに取り組むこと。</p> <p>(2) 患者・来院者のアメニティの向上 患者や来院者に、より快適な環境を提供するため、施設の改修・補修を実施するとともに、プライバシーの確保に配慮した院内環境の整備に努めること。</p>	<p>⑤病院機能評価の更新 平成 30 年度に病院機能評価の更新を受審し、医療機能の一層の充実・向上を目指す。</p> <p>3 患者サービスの向上</p> <p>(1) 診療待ち時間の改善等 地域医療機関との役割分担など地域連携を推進し、待ち時間短縮に努める。</p> <p>(2) 患者・来院者のアメニティの向上</p> <p>①患者・来院者に、より快適な環境を提供するため、施設の改修・補修等を実施する。</p> <p>②患者・家族等に憩いの場を提供するため、院内緑化を推進する。</p>	<p>●病院機能評価の更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度に病院機能評価を受審し、更新の認定を受けた。機能種別版評価項目 3rdG : Ver. 2.0 において、当院が県内初一般病院 2 の区分に認定された。【H30】 <p>●診療待ち時間の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 外来診療体制の変更を行い、午後の診察と一部外来での受付を予約再診と紹介状持参の患者のみとした。また「かかり付け医の推進」や診療報酬改定に伴う「初診時・再診時選定療養費の引き上げ」などの措置を行い、地域連携室を中心に、地域医療における機能分担の推進とともに外来待ち時間の短縮に努めた。【H28～】 麻酔科医師の協力による早期手術の円滑化、手術室での患者入替え時間短縮が可能となった。【H28～】 CT 検査、MRI 検査、血管造影検査・治療は装置各 2 台を保有。通常検査業務の時間短縮に努めるとともに緊急時検査にも対応可能した。【H28～】 <p>●患者・来院者のアメニティの向上</p> <p>主な取り組み</p> <p>平成 28 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ①1 階トイレを和式から洋式へ改修した。 ②特別室の浴室・トイレをバリアフリーに改修した。 <p>平成 29 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ①外壁回りの点検及び修繕を行った。 ②北館エレベーターの改修工事を行った。 ③個別での温度管理ができない空調設備をビルマルチタイプ(個別調整が可能なタイプ)の空調へ取り替えを行った。 <p>平成 30 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ①入退院支援センターを整備 ②空調機更新工事を行った。 <p>令和元年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ①外来処置室の空調整備工事を行った。 ②ボイラー設備の更新工事を行った。 <p>●院内緑化の推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋上庭園や外来駐車場に、季節に応じた草花の植替えを実施。園芸ボランティアによる毎日の水遣りを行い、緑化推進を継続した。
--	---	--

<p>(3) 受診者の利便性向上 受診者の利便性の向上に取り組むこと。</p> <p>(4) ボランティアとの協働によるサービス向上 ボランティア活動がしやすい環境をつくり、ボランティアとの協働を推進すること。</p> <p>(5) 職員の接遇向上 患者や来院者に選ばれる病院、患者や来院者が満足する病院であり続けるため、職員の接遇向上に努めること。</p>	<p>③患者のプライバシー確保に配慮した院内環境整備に努める。</p> <p>④患者・家族等の健康に配慮し、敷地内禁煙を継続する。</p> <p>(3) 受診者の利便性の向上 引き続き受診者の利便性の向上に取り組む。</p> <p>(4) ボランティアとの協働によるサービス向上 ボランティアが活動しやすい環境をつくり、ボランティアとの協働を推進する。 また、意見交換を積極的に行い、ボランティア活動の拡大に努める。</p> <p>(5) 職員の接遇向上 患者や来院者に選ばれる病院、患者や来院者が満足する病院であり続けるため、全職員が参加する接遇研修等により、職員の接遇向上に努める。</p>	<p>●プライバシーに配慮した院内環境整備 主な取り組み 平成 30 年度 プライバシー確保の為、4 階西病棟の個室出入口からベッド間へカーテンを設置した。 令和元年度 生理検査エコー室にプライバシー保護用のアコーディオンカーテンを設置した。</p> <p>●敷地内禁煙の継続 ・環境整備委員会を中心に敷地内禁煙を継続して行い、警備員による敷地内喫煙の見回りも引き続き実施した。</p> <p>●受診者の利便性の向上 ・通訳クラウドサービスを急病センターと総合案内で使用であったが、外来診察室や病室での利用要望が多く、平成 29 年 12 月から Wi-Fi が全病棟、全外来で使えるよう整備した。タブレットも 2 台増設して 4 台体制となった。【H29～】 ・入院のしおりや診断書、問診票、説明資料等の翻訳、院内表示物の多言語表示、入院中の外国人患者の情報共有等の活動強化を図った。【R01】</p> <p>●ボランティアとの協働 ・音楽ボランティア、園芸ボランティア、看護部ボランティア（施設美化、絵本読み聞かせ、衛生材料製作の受入れ）、七夕やクリスマスの時期に合わせた院内コンサートを行った。</p> <p>●職員の接遇向上 ・新入職員オリエンテーションにおいて接遇研修を実施。看護部内では経験年数に応じた接遇研修を実施した。【H28～】 ・全職員対象を対象に外部講師を招き研修を行った。</p>
---	---	--

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置		事業年度評価結果			
		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
中期目標	中期計画	C	A	A	A
<p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項</p> <p>1 事務スタッフの専門性の向上 事務部門においては、病院経営の専門的知識や経営感覚に優れた人材を育成し、組織として経営の専門性を高めること。</p>	<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 事務スタッフの専門性の向上 事務部門においては、病院経営の専門的知識等に優れた人材を育成し、組織として経営の専門性を高める。また急激な医療環境の変化に対応できるよう病院改革に強い意識と知識を持ち、経営感覚に富む人材の配置を外部人材の登用含めて計画的に検討する。</p> <p>(1) 研修及び先進施設の視察派遣等による人材育成を強化する。</p>	<p>[実績]</p> <p>●各年度の研修実績 平成28年度74回、平成29年度94回、平成30年度97回、令和元年度94回</p> <p>・主な取り組み</p> <p>平成28年度 全日本病院協会DPC分析事業、医療経営人材育成プログラムスタートアップ・ワークショップ、医療福祉連携フォーラム、医療経営人材育成プログラムファイナル・ワークショップ、医療対話推進者養成セミナー受講、QCサークル入門コース研修受講など</p> <p>平成29年度 医療情報学連合大会、病院経営戦略セミナー、院内がん登録実務中級認定者研修受講、病院事務職員スキルアップセミナーなど</p> <p>平成30年度 病院機能評価の受審準備に向けての講習、原価計算勉強会、全国自治体病院協議会九州地方会議、経営スタッフ育成カリキュラム等に参加。先進施設への視察派遣等は、県立新八重山病院、りんくう総合医療センター、和泉市役所、奈良県総合医療センター等を視察。</p> <p>令和元年度 原価計算勉強会、全国自治体病院協議会九州地方会議、経営スタッフ育成カリキュラム等に参加</p>			

(2) 学会参加、論文発表を推進し、専門資格取得を支援する。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
病院経営研修等への派遣回数(合計)	64 回	69 回	80 回	84 回
事務職員勉強会等	0 回	12 回	4 回	3 回
外部講師による講演指導等	8 回	8 回	12 回	5 回
オンラインセミナー	2 回	5 回	1 回	2 回
専門資格取得者数(新規)	5 人	2 人	2 人	9 人

2 予算執行の弾力化と費用節減

法人の会計制度を活用した弾力的な予算執行を行い、効率的・効果的な事業運営に努めるとともに、費用の節減等を図ること。

2 予算執行の弾力化と費用節減

(1) 法人の会計制度を活用した弾力的な予算執行を行い効率的・効果的な事業運営に努める。

(2) 適正な後発医薬品の採用促進により患者の負担軽減と法人の費用節減に努める。

(3) 薬品、診療材料等の購入価格の低減及び適正な在庫管理を行い、費用節減に努める。

●予算執行の弾力化と費用節減

・事務局各部署にて引き続き複数年契約および契約時期を検討、弾力的かつ効率的な予算執行を図り、契約回数の減少に伴う業務の軽減、契約時期の分散など業務の平準化を継続した。

●適正な後発医薬品の採用促進

・毎年度目標を設定し、後発医薬品の使用率を促進した。また採用医薬品を見直し後発医薬品への入れ替えを促進、薬品購入額の軽減に努めた。

・後発医薬品使用率の目標と実績

区 分	平成 28 年度 (数量)	平成 29 年度 (数量)	平成 30 年度 (数量)	令和元年度 (数量)
使用率 目標値	70%	70%	85%	85%以上
使用率 実績値	91.6%	92.0%	93.2%	89.3%

・薬品や診療材料について、価格交渉による大幅な削減を図った。また保険材料、非保険材料についても業者等との価格交渉、複数メーカー間での価格競合などを行った。在庫管理についても毎月 1 回各部署へ在庫データを提供し、費用節減に努めた。

(4) その他費用の適正化に努める。

●主な取り組み

- ・医療の安全・質を確保することを基本に機器の必要度、優先度を精査し購入することとした。予定機器以外（修理不能など）の機器購入に備え価格交渉を徹底的に行った。
- ・選別結果を院内ホームページに掲載し、購入予定機器の周知を行った。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置		事業年度評価結果																		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度															
中期目標	中期計画	C	A	S	A															
<p>1 経営機能の強化</p> <p>診療報酬の改定や患者の動向を見極め、迅速に情報の収集及び分析をしたうえで、対応策を立案し、的確な対応を行うこと。また、経常収支比率と医業収支比率について数値目標を設定し、経営の効率化を図ること。</p>	<p>1 経営機能の強化</p> <p>① 診療報酬の改定や患者の動向などの情報を迅速に収集・分析し、必要に応じて対応策を立案、的確な対応を行う。</p> <p>② 経常収支比率と医業収支比率について数値目標を設定する。</p>	<p>[実績]</p> <p>入院診療単価と外来診療単価は診療報酬制度に適切に対応した結果、目標値を上回ることが出来た。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院診療単価</td> <td>57,388円</td> <td>59,446円</td> <td>61,266円</td> <td>62,862円</td> </tr> <tr> <td>外来診療単価</td> <td>16,646円</td> <td>18,146円</td> <td>18,779円</td> <td>19,919円</td> </tr> </tbody> </table>				指標名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	入院診療単価	57,388円	59,446円	61,266円	62,862円	外来診療単価	16,646円	18,146円	18,779円	19,919円
		指標名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度														
入院診療単価	57,388円	59,446円	61,266円	62,862円																
外来診療単価	16,646円	18,146円	18,779円	19,919円																
		<p>経営収支比率・医業収支比率[目標値]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支比率(%)</td> <td>98.4%</td> <td>100.1%</td> <td>100.1%</td> <td>100.1%</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率(%)</td> <td>95.7%</td> <td>96.9%</td> <td>96.8%</td> <td>99.3%</td> </tr> </tbody> </table>				指標名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	経常収支比率(%)	98.4%	100.1%	100.1%	100.1%	医業収支比率(%)	95.7%	96.9%	96.8%	99.3%
指標名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																
経常収支比率(%)	98.4%	100.1%	100.1%	100.1%																
医業収支比率(%)	95.7%	96.9%	96.8%	99.3%																
		<p>経営収支比率・医業収支比率[実績]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支比率(%)</td> <td>100.1%</td> <td>101.5%</td> <td>104.4%</td> <td>103.7%</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率(%)</td> <td>98.9%</td> <td>100.3%</td> <td>103.3%</td> <td>102.8%</td> </tr> </tbody> </table>				指標名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	経常収支比率(%)	100.1%	101.5%	104.4%	103.7%	医業収支比率(%)	98.9%	100.3%	103.3%	102.8%
指標名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																
経常収支比率(%)	100.1%	101.5%	104.4%	103.7%																
医業収支比率(%)	98.9%	100.3%	103.3%	102.8%																
<p>2 収益的収支の向上</p> <p>病床利用率の向上や適正な診療収入の確保に努め、収益確保を図ること。</p>	<p>2 収益的収支の向上</p> <p>病床利用率の向上や適正な診療報酬の確保に努め、引き続き収益を確保する。</p> <p>(1) 救急指定病院として空床を確保するなど、適切な病床稼働率を維持する。</p>	<p>病床稼働率[実績]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>89.9%</td> <td>89.1%</td> <td>94.2%</td> <td>93.7%</td> </tr> </tbody> </table>				指標名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	病床稼働率	89.9%	89.1%	94.2%	93.7%					
		指標名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度														
病床稼働率	89.9%	89.1%	94.2%	93.7%																
		<p>●病床稼働率の維持</p> <p>・各年度の病床稼働率は上表のとおりであった。病床の確保は適切に実施できた。また、休日・夜間の入院病床確保について、急病センター</p>																		

	<p>(2) DPC/PDPS の機能評価係数の内容を検討し係数を高めるための対策を行う。</p> <p>(3) 診療報酬の請求漏れや減点を防止するとともに、未収金の未然防止対策と早期回収に努める。</p>	<p>からスムーズに入院病棟へ患者を受け入れる体制を維持できた。</p> <p>・入退院支援センターを整備し、病床稼働率向上に取り組んだ。【H30～】</p> <p>[実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重症度の高い患者と幅広い症例の受入、精緻で適切な DPC コーディングや効率的な入院医療が評価されたことにより機能評価係数Ⅱについては、平成 28 年度 0.0673、平成 29 年度 0.0689、平成 30 年度 0.1041、令和元年度は基準が下がったこともあり、0.0986 (10 月時点) となった。 <ul style="list-style-type: none"> ●診療報酬の請求漏れや減点防止 <ul style="list-style-type: none"> ・診療情報管理士による DPC に係る情報関連のチェックと関連職員への教育。 ・査定減の内容分析とその対応のため、内容分析保険診療委員会を毎月開催 ・診療データ入力確認時に内容不一致の場合のデータ訂正 ・診療報酬明細書の 2 重または 3 重チェックのための職員配置 ・コーディング委員会の開催 ・入院業務を職員に変更 ・医師および看護師への診療報酬に関する勉強会の実施 ●未収金の未然防止対策と早期回収 <ul style="list-style-type: none"> ・未収金台帳の作成・管理、電話督促、督促状の発送、訪問徴収、支払相談等の実施。入院予定患者の保険証、前回未収の有無の確認。 ・各種公費、高額貸付制度、出産育児一時金受取代理制度の利用促進。 ・メディカルソーシャルワーカーの介入 ・クレジットカードや銀聯カード払いへの対応継続
--	---	--